

城のある都市復活

福岡城だより

2019.冬
WINTER
No.60



迎
春

福岡城彩発見フォトコンテスト

入選作品「足早に急ぐ少女」

堀 康二

リニューアルの詳細はご来館の折に見ていただくとして、外観は大濠公園側に新しい入り口をつくった以外ほとんど変わっていません。いや、変えませんでした。世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の設計者建築家ル・コルビュジエの弟子、前川國男の設計になる建物で、大濠公園との調和もよく、彼が設計した多くの美術館のなかでもすぐれた建築で、将来に向かって美術館が継承保存してゆくべき美術作品だからです。

リニューアルは、建物・設備などのハード面だけではなく、美術館活動や運営などのソフト面においても新しい取り組みを行います。

将来、大濠公園と舞鶴公園を一体化するセンターラバーアークのなかで、福岡市美術館は美の殿堂として永く市民に愛される美術館であり続けるでしょう。



福岡市美術館長
堀 康二

錦織
亮介

福岡市美術館のリニューアル

環境の老朽化が目立ち始め、特に美術品の保護に欠かせない空調設備の危うさや、ユニバーサル・デザインへの未対応などが理由でした。工事期間は実質一年でしたが、一万六千点におよぶ美術品の搬出と再搬入という神経を使う仕事があり、二年半の長い休館になり多くの方々にご迷惑をおかけしました。

開館以来四十年近くになり、施設・設備・展示

福岡市美術館は二〇一九年三月二十一日にリニューアル・オープンいたします。

シリーズ 在りし日の福岡城・鴻臚館への誘いー1

福岡市民の会会員 室川 康男

共創事業のテーマの一つとして、「市民目線の案内標識」のため、在りし日の福岡城・鴻臚館の画像作成依頼があり、水彩画の原画をベースにして画像データを作成しました。画像は現地案内標識、そのほかの広報活動においてイメージ画像として広く活用していくことになりました。実行委員会で決定された32画面(福岡城:20、鴻臚館:12)の画を、福岡市の時代考証や残存している古写真などを参考に、ドラマティックな場面構成になるように「市民目線」を大切にして作成しました。

これらは「史跡の往時の姿やそこで繰り広げられる人々の生活、活動を想像させる情景」をリアルティに表現したものです。案内標識の画像は風景と対峙させて設置することによって、来訪者が現地風景と重ね合わせながら想像力を膨らませて、説明文(日、英、中、韓、4ヶ国語)とともに在りし日にタイムスリップして、ワクワクと回遊できることが狙いです。

この手法は欧米では広く用いられている遺跡保存手法の一つです。廃墟を完全に復元しなくとも往時の姿や情景を想像たくましくロマンを持って認識できるように、遺跡を現状の姿のまま整備し、遺跡が今日まで辿ってきた歴史的時間の痕跡までを大切に保存しています。

(写真は上ノ橋御門跡)



往時の情景



古写真



現状風景



案内標識設置イメージ

舞鶴公園の冬の花ならざさんか・やぶつかなどのツバキ科の仲間とすいせんとうめです。ツバキの仲間は12月から3月まで園内を飾ってくれます。「福岡市の花（冬の花）」のさざんかは、代表的な品種「勵次郎」がテニスコートの東側にあります。同じツバキ科のやぶつかは、園内に約300本あり、メジロたちが蜜を吸いにやってきます。小型の花をつける「侘助」が多門櫓の南側に赤と白が、松木坂と城内道路の間には赤と桃色の株があります。

次にすいせんですが、牡丹・芍薬園への坂東から南にまわる斜面にたくさん生えています。園内の他の所にも生えていて、場所や気候によってばつつきがあるのが満開の時期が12月のところがあれば3月になるところもあるおもしろい植物です。ほのかな香りも楽しめてくれるすいせん、お奨めは牡丹・芍薬園への坂道の左側に咲く「八重咲」のものです。花の最後はうめ。昭和50年にできた二の丸梅園には紅梅・白梅・枝垂れ梅など約30種、270本のうめがあります。

お奨めは表御門跡の石段の左手前の「思いのまま」で、紅と白と咲き分け、中には一輪の中に紅と白が入るものがあります。毎年2月下旬の「梅まつり」には多くの来園者のみなさんにうめを鑑賞していますが、種類によって花の咲く時期が違います。1月下旬から3月上

舞鶴公園の冬の花ならざさんか・やぶつかなどのツバキ科の仲間とすいせんとうめです。ツバキの仲間は12月から3月まで園内を飾ってくれます。「福岡市の花（冬の花）」のさざんかは、代表的な品種「勵次郎」がテニスコートの東側にあります。同じツバキ科のやぶつかは、園内に約300本あり、メジロたちが蜜を吸いにやってきます。小型の花をつける「侘助」が多門櫓の南側に赤と白が、松木坂と城内道路の間には赤と桃色の株があります。

次にすいせんですが、牡丹・芍薬園への坂東から南にまわる斜面にたくさん生えていて、園内の他の所にも生えていて、場所や気候によってばつつきがあるのが満開の時期が12月のところがあれば3月になるところもあるおもしろい植物です。ほのかな香りも楽しめてくれるすいせん、お奨めは牡丹・芍薬園への坂道の左側に咲く「八重咲」のものです。花の最後はうめ。昭和50年にできた二の丸梅園には紅梅・白梅・枝垂れ梅など約30種、270本のうめがあります。

お奨めは表御門跡の石段の左手前の「思いのまま」で、紅と白と咲き分け、中には一輪の中に紅と白が入るものがあります。毎年2月下旬の「梅まつり」には多くの来園者のみなさんにうめを鑑賞していますが、種類によって花の咲く時期が違います。1月下旬から3月上



ウメ「思いのまま」：梅園



ヤブツバキ：北駐車場北側



ササンカ「勵次郎」：テニスコート東側

シリーズ

元舞鶴公園管理事務所所長 松本 伸三郎

舞鶴公園の四季「冬」

舞鶴公園の冬、いろんな生き物が頑張っています。彼らの姿を記録するためカメラを持つてぜひお出かけください。彼らも待っています。

今まで楽むことができます。花の次は、渡り鳥たちです。「秋鳥」でひとりがもの到着をお伝えしましたが、それに続きほしはじる、まがもなどもやってきます。その他にきんくろはじろ、はしごろがもと一年中いる留鳥のかがももいれて6種類のかもと、2年間の在職中に出会うことができました。雌雄とも頭に冠羽があるきんくろはじめは、大濠公園には多く渡ってきますが、も・ほしはじろ・まがも・かるがも・きんくろはじろは・はしごろがもでした。

数の多いほうからの順番は、ひとりがも・ほしはじろ・まがも・かるがも・きんくろはじろは・はしごろがもでした。それとはしごろがもには、1番（つがい）しか出会えませんでした。

かも類以外では「福岡市の鳥（海の鳥）」のゆりかもめもがレギュラーです。濠端の園路にすらつと並んでひなたぼっこしたり、濠の上を群れて飛び回るなどわがもの顔で冬を過ごしています。是非目にしていただきたいのが、凍った濠の氷の上に降りている姿で、まるで水上に立っているように見えます。おおばんも黒い姿に白いくちばしと額がなかなかダンディーな鳥で、冬の脇役になっています。

西郷家のルーツは熊本の菊池一族だった！



「西南戦争」最大の激戦地「田原坂・山鹿口」を訪ねる！

——西郷隆盛のルーツ、菊池・増永城跡もたずねる——



西南戦争の軌跡 1877年
(明治10年)

政府軍
薩摩軍

薩軍1万3千人は「政府に訊問の筋これあり」との届書を政府及び沿道府県に通告し、明治10年2月15日(旧暦1月3日、10年前の鳥羽伏見開戦の日)大雪のなかを熊本に向か、大隊ごとに意氣軒昂に北上していきました。

2月22日熊本城を総攻撃後、一部の兵力を熊本城包囲に残し、主力は菊池川河畔まで北上、熊本隊・熊本協同隊等とも合流し、2月25日より高瀬(現玉名方面)26日より山鹿方面に於いて、南下する政府軍と交戦開始。以後4月14日の人吉への一斉退却まで、約2カ月に及ぶ「田原坂・山鹿口」地域を中心とした陣地争奪戦を繰り広げました。

以後5月29日人吉から宮崎へ、8月15日延岡和田越え、8月18日可愛岳越え、9月1日鹿児島の城山に帰りつき最後の戦いを挑みます。24日官軍の城山総攻撃を受け、西郷隆盛は岩崎谷で銃弾に倒れ、別府晋介の介錯により自決しました。享年50歳。

官軍の兵力6万人(戦死戦傷者1万6095人)に対し薩軍3万3千人(戦死戦傷者1万7476人)にあつたと言われています。

◆ 高瀬の戦い(2月25日～27日)

官軍第一旅団、第二旅団と薩軍一番大隊(篠原国幹元少将)二番大隊(村田新八元少佐)四番大隊(桐野利秋元少将)が高瀬市街戦から菊池川を挟んで大激戦を展開しました。27日西郷の末弟小兵衛(31)が戦死。

◆ 吉次峠の戦い(3月4日～4月1日)

官軍第一旅団野津大佐指揮の部隊は夜を徹して砲撃を加えたが薩軍はびくともせずに、官軍近衛連隊江田少佐は、薩軍の陣頭指揮をしている篠原国幹の姿を発見し部下に狙撃を命じました。一発の銃弾で篠原は吉次峠に散りました。江田少佐もこの戦いで薩軍から狙われ戦死しました。この方面は、高瀬方面から熊本城に通じる道として、田原坂同様に軍用道路であつたため、もともと熊本隊(隊長佐々友房)が死守していました。

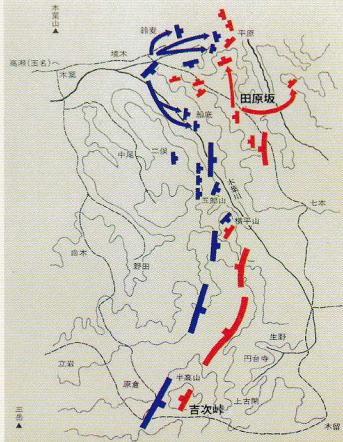
◆ 田原坂の戦い(3月2日～20日)

最大の激戦地です。両軍の死傷者総数は、官軍が5653名、薩軍が2491名です。このころ、雨がよく降りました。まさに「雨はふるふる、人馬は濡れる、

鍋田台地を主戦場として戦いが繰り広げられました。この方面的薩軍には、開戦当初より熊本協同隊、宮崎の飫肥隊も戦列に加わっていました。

◆ 山鹿口の戦い(2月26日～3月21日)

だ激戦地でした。



田原坂戦闘配置図 官軍＝青 薩軍＝赤

西郷隆盛が奄美大島に潜在した時、「吾の源は菊池あり」と「菊池源吾」と名乗り、自らのルーツを菊池一族に求めました。

奄美の妻「愛加那」との間に生まれた長男には菊次郎、長女には菊草と「菊」の字を付けたのは、自身が一族の末裔であることを意識したことだったと言われています。

西郷家は、菊池氏初代則隆の長男政隆が一族の重臣として現在の菊池氏七城町西郷地区に移り住み、増永城(西郷城)を構え西郷太郎と称したことから始まります。

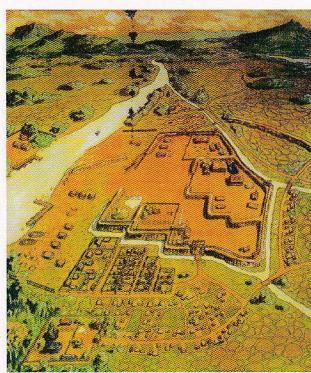
菊池一族は、鎌倉時代では「蒙古襲来」の時に十一代武房を、南北朝時代では「南朝の忠臣」として十五代武光を擁して大活躍した一族です。

西郷隆盛自身も西南戦争では官位剥奪されます。が、明治16年に明治天皇から「隆盛は國の為に勤めた者であるから子供には留学させ、しかるべき取り立てはどうか」とのお言葉を賜り、翌年寅太郎はドイツ留学が決まりました。

明治22年2月、大日本帝国憲法発布の大赦により賊徒汚名が除かれ、さらに正三位が追贈されました。西郷を復讐させることで天皇の心の内なる西南戦争は終わつたのではないでしょうか！

さらに明治22年10月、天皇の意を受け宮内省から五百円の下賜金があり、銅像建設計画が進展します。西郷の自刃から21年後の明治31年12月18日、かの有名な東京上野の西郷隆盛銅像除幕式が行われました。

十五代菊池武光公時代の増永城(想像図)



菊池市役所 都市整備課

報告 第11期 福岡歴史観光市民大学（第11回から第20回）

第11期福岡歴史観光市民大学は、7月2日に開講、11月19日までに全講義20回が終了し、同日閉講式が行われました。

石井幸孝学長（当会理事長）から「毎回講義を聴かれてきた受講者の皆さまの向学心に敬意を表します。講師の方々が提供してくださったレベルの高い講義内容にご満足いただけたと思います。運営については至らない点があつたかもしれません。運営が、予算で展開している事業であり、皆さまのご理解をお願いいたします」との挨拶がありました。

事務局からは「出席率70%以上の精勤者が105名（うち皆勤22名）。平均すると約78%の出席率であつた」と報告がありました。

田中幸子様に代表で修了証が授与され、田中元様からは受講に至った経緯と、印象に残った講義の感想を発表していただきました。

今号では第11回から第20回までの講師と講義のテーマを紹介し、講義の簡単なまとめ、または受講者の感想や学長・事務局員の所感を簡単に付け加えます。（敬称略）



第14回 木村 誠

博多の伝統工芸と今後の活性化のために
はかた伝統工芸館に展示されている工芸品の紹介から、それらを世界のブランドにするために、工芸館の方々がどのような取り組みをされているのかまで言及されました。

第15回 塩津圭介

能楽のお話～舞台での役割
シテ方と三役（ワキ方、囃子方、狂言方）の役割を解説していました。能は「想像力を働かせて楽しむもの」を実践すべく、実際に先生の舞を見てどのような場面なのかを発表する時間もあり、継続して受講されている方でも「あてられるかも」と少しどキドキされたそうです。

第16回 西垣彰博

糟屋評家・夷守駅と古代道路
先生が関わられた糟屋の発掘現場や出土品の映像と、地図での位置の確認が、印刷された資料でより良く理解させてくれました。平城・京とのすり合わせも興味深いものがありました。

第17回 石井幸孝

九州の鉄道の歴史
国家にとって鉄道とは何かから始まり、鉄道の歴史・進化の概略を解説しました。JR九州の成長戦略や、九州新幹線が経済に与える影響などの内容に、講義終了後、数名の受講者が「聞きたかった話でした」と感想を述べられていきました。

第18回 有馬 学

モノづくりの近代日本を支えた福岡人士
近代日本の形成に、福岡藩ゆかりの人物がいかに関わってきたかを、安川敬一郎、金子堅太郎、田琢磨を中心語っていました。詳細な資料に受講者は感心していました。

第19回 江戸時代の朝鮮通信使

映し出された数々の道具の映像に「こんな保溫ジャーあつたなあ」羽釜・・・なつかしい」との感想がもれています。日本料理の様式についてのまごは、日常生活で大変役立つそうです。

第20回 黒田 澄

浮世絵のオモテとワラと夢と現実の構図
浮世絵が世界から受けた影響逆に世界に与えた影響を中心に話していました。江戸時代は、一般人が高い文化を楽しんでいた佳き時代だったことがわかりました。

● 福岡城内巡りと古代官道歩き

澄み渡った空氣の中、福岡城内や古代官道を歩きましょう。

①「福岡城内巡り」 2月17日(日) 10時～12時

福岡城の礎を築いた長政の足跡を見つけよう

②「石垣から見た福岡城」 2月24日(日) 10時～12時

石城といわれる福岡城の様々な石垣を探ろう

③「古代官道を歩く」 3月3日(日) 10時～13時 (健脚コース)

鴻臚館と大宰府を結ぶ古代官道を福岡城跡から大橋まで歩こう

集合場所：①三の丸スクエア

②福岡城むかし探訪館

③福岡市立中央体育館玄関前

参加費：500円（小学生以下無料、大人同伴）

申込・お問合せは福岡市民の会まで

（締め切りは催行日の3日前まで…小雨決行）

NPO法人福岡市民の会 092-716-8238



第5回 文化人・経済人交流 望年会

12月19日 「どうぞダイニングなつの花にて開催

に開催

本格的な寒さが数日続いた合間の暖かな日

文化人・経済人交流 望年会が開催されました。最近は「イヤなことを忘れる」会よりも「将来に希望を持つ」会が主流になってい

るそうです。

民謡の四天王の一人藤堂輝明さんが出演されるのも楽しみに、60名余りの方々のご参加がありました。

当会石井理事長の冒頭挨拶につづき、ご出席の方々からお言葉をいたいた後、いよいよショータイム。藤堂さんはNHKの全国放送でも活躍中だけあり、黒田節や刈田切唄など、各テーブルを巡りながら朗々と歌いあ

げ、観客の心をぐっと捕まえ放しません

第1回 福岡城・城下町フォトコンテスト

A 福岡城「彩」発見部門…舞鶴公園・大濠公園で発見した四季の彩

B 城下町「再」発見部門…再発見した城下町らしさ

A・Bの二部門でA4判にプリントアウトした写真を募集します。
締切り：3月29日（金）必着

応募要項など詳細は事務局にお問合せください。

福岡城・城下町フォトコンテスト実行委員会事務局
NPO法人福岡市民の会 092-716-8238



民謡で盛り上がった会場では、その後も賑やかに歓談が続き、あつじう間に2時間が過ぎてしまいまし

た。締めは、黒田潤学会の田中さんの博多にわが。平成最後の年末の一夜、笑いを共有し、「望み」がそこにある

新規会員名簿(敬称略)

(平成30年12月31日現在)

正会員(個人)

土路生信行 内田 光江 田中 雅博

一般会員(個人)

坂口 孝治 秦 紀代子 平野 瞳子
塚本 哲夫 深山 博人

新規会員を募集しています。ご入会お待ち申し上げます。

集後記

明けましておめでとうございます。

今回から表紙の絵を描いて頂いていた室川氏に「在りし日の福岡城・鴻臚館への誘い」を冬号は先触れですがシリーズで掲載いたします。昔の福岡城の情景を想い描きながら、文章と絵をお楽しみください。また、フォトコンテストの募集も行っています。奮ってご応募ください。

本年もご支援の程よろしくお願い致します。

編集・発行 NPO法人:福岡市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15

読売福岡ビル7階

TEL 092-716-8238

FAX 092-716-8254

HPアドレス <http://fukuokajokorokan.info>

E-mail staff@fukuokajokorokan.info

[デザイン印刷] 城島印刷株式会社

福岡市民の会

検索